

黄昏 (1951)

CARRIE

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマン스

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 122分

初公開日 1953/10/15

公開情報 P A R

【解説】

『アメリカの悲劇』（「陽のあたる場所」の原作）を書いたドライサーの小説『シスター・キャリー』を映画化したもので、ワイラーは、社会派メロドラマ作家のこの原作の恋愛部分に焦点を絞って、重厚な悲劇を作っている。

19世紀末、シカゴに働きに出た田舎娘キャリー（ジョーンズ）は、すぐさま悪い男にだまされ、彼と同棲を始める。彼女の勤める高級レストランの支配人ハーストウッド（オリヴィエ）は素朴な彼女に惹かれていくが、その裏には、全財産を自分名義にしている因業な妻との冷え切った仲があった。キャリーとの結婚を考え、妻に離婚話を持ちかけるハーストウッドはまるで相手にされず、また、ビター文自由になることもなく、遂に店の金を盗んでキャリーと二人、NYへ駆け落ちした。幸福な暮らしを営んだのも束の間、私立探偵の追及に、残った金をすべて返し警察沙汰は免れたものの、彼には一生拭いきれぬ汚名が残り、まともな勤めも許されなかった。やがてキャリーは女優となり、彼の留守中姿を消した。時は流れ、キャリーはもはや大スターである。ある夜の公演の後、彼女は、楽屋口に施しを乞う浮浪者をまじまじと見た。それは紛れもなく自分の棄てた男ハーストウッドだった。彼女はその姿にショックを受け、再び彼と共に暮らし、二度と離れぬと誓ったが、彼女が事務所に金を借りに行っている間に、彼はテーブルの上の小銭を取ってとぼとぼと立ち去ってしまう……。愛ゆえに落ちぶれていく男の悲哀をオリヴィエが侘びしくみせて、ジョーンズも素晴らしいが、何より彼の孤独なさまが目には焼きついて離れない、“男のメロドラマ”だ。

【クレジット】

監督	ウィリアム・ワイラー	William Wyler	
製作	ウィリアム・ワイラー	William Wyler	
原作	セオドア・ドライサー	Theodore Dreiser	
脚本	ルース・ゲイツ	Ruth Goetz	
	オーガスタ・ゲイツ	Augustus Goetz	
撮影	ヴィクター・ミルナー	Victor Milner	
編集	ロバート・スウィンク	Robert Swink	
音楽	デヴィッド・ラクシン	David Raksin	
出演	ジェニファー・ジョーンズ	Jennifer Jones	キャリー・ミーバー
	ローレンス・オリヴィエ	Laurence Olivier	ジョージ・ハーストウッド
	ミリアム・ホプキンス	Miriam Hopkins	ジュリー・ハーストウッド
	エディ・アルバート	Eddie Albert	チャールズ・ドルー
	ベイジル・ルイスデール	Basil Ruysdael	フィッツジェラルド
	レイ・ティール	Ray Teal	アレン
	バリー・ケリー	Barry Kelley	スローソン

サラ・バーナー	Sara Berner	オランスキー夫人
ウィリアム・レイノルズ	William Reynolds	ジョージ・ハーストウッド・J r
メアリー・マーフィ	Mary Murphy	